

RANDONNEUR PLUS PROJECT

ROAD TO RAAM

YUSUKE
OCHIAI

サイクリスト 落合佑介

4,880kmの挑戦

2023.02 RANDONNEUR PLUS PROJECT代表 森脇 裕





「このレースは、ひとりでは走れない。」

1,000kmを超えるような道のりをひたむきに走る、超長距離サイクリストの落合佑介。彼は今年6月、世界で最も過酷といわれるアメリカ横断自転車レース、「Race Across AMerica (RAAM)」に挑戦します。およそ5,000kmにおよぶ道の先に彼が目指すのは、日本人男性がまだ成し遂げていない表彰台の高みです。

この挑戦に向け、私たちはサポートチーム「RANONNEUR PLUS PROJECT (RPP)」を編成しました。落合選手の力強い走りを普段から目にし、また彼のチャレンジに心を動かされた、15人の有志がサポートを申し出ました。

これまでに、2021年10月には「日本列島縦断ギネス記録」(約2,587km/鹿児島県佐多岬～北海道宗谷岬)を136時間30分で記録更新。2022年6月には、RAAMの前哨戦でもある、「Race Across the West (RAW)」(約1,500km/カリフォルニア州オーシャンサイド～コロラド州デュランゴ)へ出場し、男子ソロカテゴリーU-50部門で優勝、総合2位の成績で新人賞を獲得。この結果は、RAAM本戦での表彰台に大きな期待を抱くものとなりました。

また、ギネス世界記録への挑戦では、RPPの設立主旨でもある「社会貢献活動」の一環として、令和3年8月豪雨災害へ

の募金活動も実施。日本列島を北上する彼の勇姿に響き合うように、全国からたくさんの募金が集まりました。

今回のRAAM出場に際して、彼にはもうひとつの挑戦があります。フルタイムワーカーであり、ひとりのアマチュアサイクリストが世界最高峰のレースに参加すること、そのものが大なる挑戦なのです。約10日間におよぶレース期間、10名からなるクルーを率いてのRAAM参戦は、彼のみならず、彼を応援するすべての人にとっての1つの大きなチャレンジとなります。

アメリカでの超長距離レース参戦にかかる費用は、アマチュアサイクリストにとって大きな負担です。ご賛同いただく自転車仲間、団体や企業様からのご支援に頼らざるを得ません。今回の挑戦で落合選手が見せてくれる走りは、きっと多くの方々の心に残るものとなるはずです。

「このレースは、ひとりでは走れない。」

この一文は、彼がRAWを完走後に漏らした言葉です。そこには、ご支援をいただいた方々への思いが溢れていました。RAAM参戦に向けて、落合選手を表彰台へ押し上げていただけるよう皆様からのご支援をお願い申し上げます。



PROFILE

落合 佑介 【おちあい ゆうすけ】 奈良県在住 所属先：RANDONNEUR PLUS PROJECT

自転車歴

2009年 超長距離サイクリング プルベを始める

2011年 BRM604近畿600紀伊半島1周を23時間34分にて完走。第17回Paris-Brest-Parisに初出場。日本人2位の55時間32分にてゴール。

2015年 2回目出場の第19回Paris-Brest-Parisでは日本人2位の50時間32分にて完走。

2016年 Bike Across Japan 2400(鹿児島県佐田岬～北海道宗谷岬間 2,400kmのプルベ)を118時間54分にて完走。ギネス認定外ながら、日本縦断最速記録を樹立。BR715北海道1200を48時間32分にて完走。国内1,200キロの最速記録を樹立。

2017年 Japanese Odyssey 2017(3,854km/獲得標高35,268m)に日本人として初出場。279時間20分にて全体トップで完走。

2018年 Japanese Odyssey 2018(2,800km/獲得標高33,224m)を199時間45分にて全体トップタイムで完走

2019年 3回目出場の第19回Paris-Brest-Parisではアジア人トップ/全体20位の48時間28分にて完走(ノンサポート記録)

2020年 RAAMの日本予選であるRAA(Ride Around Aomori 距離650キロ)を24時間10分のトップで完走

2021年 日本縦断ギネス記録(距離2,587キロ)に挑戦し、136時間30分のギネス世界記録を更新(2022年7月認定)

2022年 アメリカ西部の長距離レースRAW(Race Across the West 距離930マイル)を63時間34分でUnder50カテゴリ優勝・総合2位の成績で完走。

Paris-Brest-Paris



パリ・ブレスト・パリ(仏: Paris-Brest-Paris, PBP)は、フランスのパリからブルターニュ半島の先端の街ブレストまで往復する1,200kmのサイクリングイベントで、1891年に最初に開催され、現在でも継続されている世界最古の自転車イベントである。プルベの最高峰とされ、多くのサイクリストの目標となっている。2019年の第19回大会では全世界から6000人超のサイクリストが参加、日本国内からは400名弱のサイクリストが参加した。

<https://www.paris-brest-paris.org/>

Japanese Odyssey



Japanese Odysseyは日本国内を舞台にしたウルトラディスタンスサイクリングイベントで2019年で5度目の開催となる。日本国内で開催されるサイクリングイベントとしては最長距離となる。年度によりコースや距離は異なるが、2017年度に開催された第3回大会では東京日本橋～東北～九州の3800kmのルート設定がされた。参加者はセグメントと呼ばれるチェックポイントを通過することが義務付けられているが、セグメントとセグメント間のルートは各参加者による自由な設定してよいというルールになっている。

<https://www.japanese-odyssey.com/>



4,880km 世界最高峰へ挑む。

SCHEDULE

2023.6.5 クルー先発隊・渡米：
サポートカーの手配他準備

6.8 落合現地入り+現地トレーニング

6.13 レーススタート

6.25 レース終了

6.27 帰国

RAAM



レース・アクロス・アメリカ(Race Across America、RAAM)は、世界で最も過酷な自転車耐久レースであり、5,000kmにおよぶ距離で争われる。グランツール(ジロ・デ・イタリア、ツール・ド・フランス、ブエルタ・ア・エスパーニャ)とは異なり、シングル・ステージの世界最長のタイムトライアルレースである。ドラフティングは禁止されており、一般公道を使用して行われる。サポートクルーの帯同が義務付けられており、最小2台のサポートカーとそれぞれ2人の免許を所持するドライバーが最低でも必須となる。

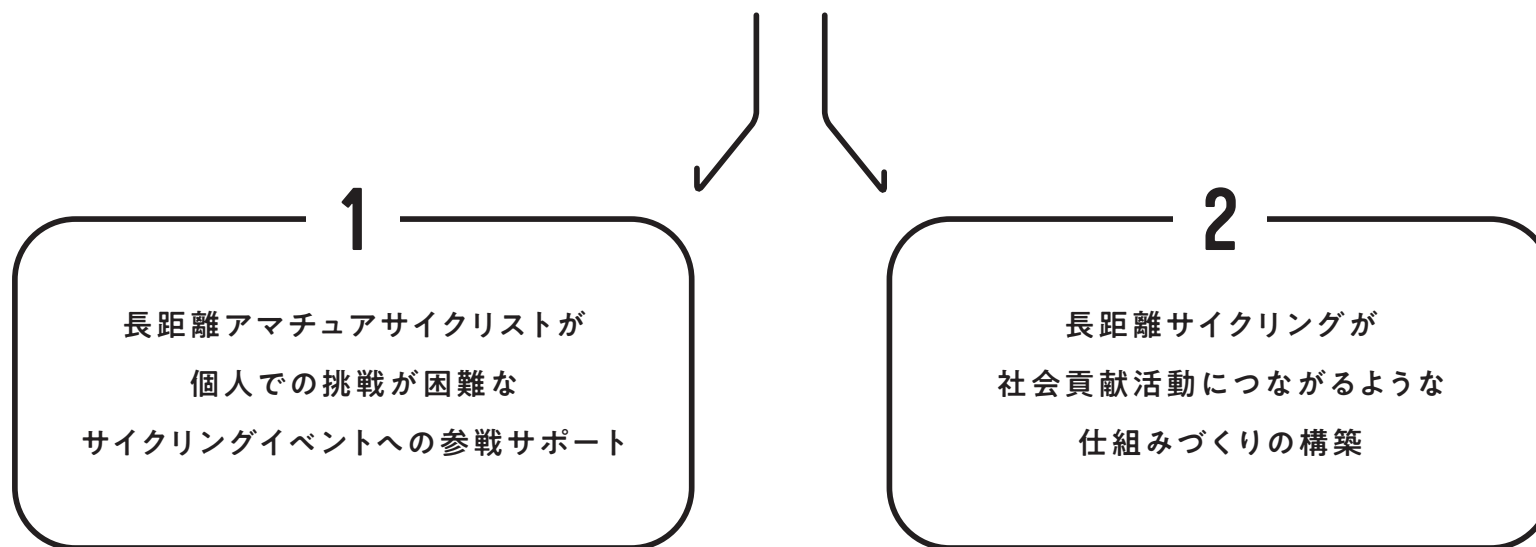
<https://www.raceacrossamerica.org/>



ランドナープラスプロジェクト

RANDONNEUR PLUS PROJECT

私たちは以下の2つのコンセプトをもとにプロジェクトを進めていきます。



私たちの目標とするもの

長距離サイクリングイベントとして日本にも根付いてきたブルベ。ランドヌールとも呼ばれるこのイベントでは1,200kmを超える大会が日本国内外でも開催され、多くのサイクリストが挑戦し完走を勝ち取っています。

一方、世界にはさらに過酷なレースがあり、限界に挑戦を試みるサイクリストが現れてきています。しかし世界トップクラスのレースへの参戦はサポートクルーの確保、資金の調達とアマチュアサイクリストには参戦自体が困難な環境であるのが事実です。このプロジェクトはそんな長距離サイクリスト（ランドナー）を応援するために立ち上げたものです。ランドヌールイベントをさらに超えた（プラスされた）挑戦を支えるというコンセプトが名称の由来です。

それに加え、名称にあるプラスには「サイクリストの挑戦が何らかの社会貢献につながる事を目標とする」プロジェクト自体への挑戦も含まれています。自転車で長距離を走るにあたって欠かせないもの、それは道路、豊かな自然、そしてそこに住む人々です。整備された道路を走り、自然に触れ、そして地元の方々とのふれあいを楽しむ中、我々は地震や自然災害が起こる度に、その環境がいとも簡単に崩壊していくところも何度も目の当たりにして参りました。慣れ親しんだ環境の復興、防災意識の醸成の一助となるような行動も私たちにとっては大きな責務です。私たちは防災、減災そして復興支援といった社会活動も一つの切り口として活動してまいりたいと考えております。



SUPPORTER

代表 森脇裕

日本のブルベ黎明期より長距離サイクリングに取り組み、とりわけ海外ブルベに精通。ISR2000を世界で初めて取得（4大陸の2000キロ超のブルベ）、令和元年に日本縦断2700キロを186時間で走破後、チャリティイベントを実施し、北海道胆振地震への募金活動を実施。オダックス近畿所属。大阪サイクリング協会理事。

事務局長 片山泰輔

オダックス近畿副代表 神戸班担当。世界最大のブルベ団体オダックス近畿にて多くの主催ブルベを手掛け、超級山岳に特化したGranfondoシリーズ、SR600などを主催。自身もランドヌールとしても活動し、第19回Paris-Brest-Parisを完走。

その他全国よりサポートメンバー 15名(現状)。

アメリカレース参戦における資金予測とご協力のお願い

アメリカのレース参戦資金の内訳 (予測：約540万円)

RAAM (Race Across America) 2023年6月予定(約20日滞在)

参加費	約 43 万円	落合支払い済み
渡航費	約 25 万円/人	<ul style="list-style-type: none"> ● 帯同ボランティアスタッフ 個別負担(保険含む) (現地スタッフは別)
滞在費	約 350 万円	落合負担 内訳(スタッフ8名) <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊費 約40万円 ● 移動費 約220万円 ● 食費 約50万円 ● 現地機材他 約40万円

ご協力のお願い

落合負担によるチームの現地滞在費から補填を開始。次にボランティアスタッフ自身の負担である渡航費の補てんを行う。最後に参加費補填を行い、余剰はRANDONNEUR PLUS PROJECTの活動費(自転車を活用した社会貢献活動をベース)とする。

スポンサー

落合選手への機材提供、および直接的な金銭によるサポートをいただける企業様、団体様に向けたご協力のお願いです。

クラウドファンディング

ファンドレイジングサービスを利用し、RANDONNEUR PLUS PROJECTが実施する。クラウドファンディングは2023年5月を予定しています。

物販

記念サコッシュやジャージなどの物販を実施する。その他、物販に協力いただける場合ご相談ください。

スポンサーについてのお願いとご意思確認

以下よりご支援いただく方法をお選びください。(複数可能)

1

落合選手への機材提供

ホームページ、SNSなどを通じてサポートいただいた機材の宣伝を行います。

2

クラウドファンディングの返礼品へのご協力

ご提供いただいた返礼品をクラウドファンディング協力者へ提供いたします。ホームページ、SNSなどを通じて返礼品や貴社に関するの宣伝を行います。

3

直接的な金銭のサポート(1口)

ゴールドスポンサー **50**万円

シルバースポンサー **30**万円

ブロンズスポンサー **10**万円

RAAM本選はサポート人員と滞在時間が増えるため、個人負担がかなり大きくなります。是非とも直接的な金銭サポートのご協力をお願いします。

レース期間中、スポンサー様のロゴをサポートカーに掲示し宣伝いたします。当プロジェクトが発行するメディアに対して、スポンサー様のロゴ、名称を掲載いたします。

※1) 2022年度RAW参戦時よりすでに機材提供をいただいているスポンサー様へも、2023年度としてあらためてご連絡申し上げます。

※1)、2)、3)に関わらず、RANDONNEUR PLUS PROJECTウェブサイトへスポンサー様のロゴを掲載いたします。

※その他、販促品など活動宣伝用の媒体へのロゴ掲載については個別にご相談させていただきます。

2019



『CYCLESPORTS』2019年2月号
インタビュー掲載

2020



『CYCLESPORTS』2020年3月号
インタビュー掲載



『CYCLESPORTS』2020年3月号
インタビュー掲載

2021



『LINZINE』インタビュー掲載

2022



『FUNRIDE』インタビュー掲載



『FUNRIDE』インタビュー掲載



オージーケーカブト社様 note
ルポ掲載 第1回～第4回



『CYCLESPORTS』2021年1月号
日本縦断ギネス ルポ掲載



『CYCLESPORTS』2022年9月号
RAW参戦 ルポ掲載



『Beyond Magazine』
ルポ掲載 前後編